



とびっくす No.54

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.jp/suigi/>)

サルボウガイ成果報告会を開催

～ 中海での増殖技術 どこまで進んだか ～

水産技術センター浅海グループでは、農林水産省が設置する農林水産技術会議の新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「環境変化に対応した砂泥域二枚貝類の増養殖生産システムの開発」(平成21～23年度)において、鳥取県、島根大学、(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所と共同で中海のサルボウガイ漁業の復活に向けた調査研究を実施しています。

このたび、一般市民や関係者を対象に中海の環境や我々の取り組みへの理解を深めて頂くことを目的に、これまでに得られた成果についての報告会を開催しました。

報告会の概要

報告会は、島根県・鳥取県が共催し、平成 23 年 7 月 2 日(土)に松江市の県民会館で開催しました。当日は官公庁職員や大学関係者を始め中海の漁業者や NPO 法人など約 50 名の参加がありました。

水産技術センター北沢所長の挨拶の後、鳥取県衛生環境研究所の宮本上席研究員から取り組みの経緯について説明があり、続いて 6 つの課題の報告を行いました(写真 1)。このうち水産技術センター浅海グループからは、天然採苗や人工種苗生産の技術開発に関する「稚貝を大量に生産する方法」と放流技術に関する「稚貝をどこに放流すれば良いか」の 2 課題について、それぞれ開内専門研究員と佐々木浅海グループ科長が報告しました(写真 2)。最後は、勢村内水面浅海部長による総括の後、長谷岡鳥取県衛生環境研究所長の挨拶により約 2

中海のサルボウガイ漁業の復活に向けて — どこまで進んだか —

サルボウガイの生活史に沿った増殖技術の再構築を目指して！

サルボウガイの生活史と課題

浮遊幼生 → 稚貝 → 成貝

課題 1
産卵の条件は？
サルボウ成貝はどれ？
成貝はどこへ行く？

課題 2
成長・生殖の条件は？
しほの中海の環境は？

— プログラム —

1. 取り組み経緯 (鳥取県衛生環境研究所)
2. 幼生をどのように見分けるか (水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所)
3. 稚貝を大量に生産する方法 (鳥根県水産技術センター)
4. 稚貝の遺伝子からわかったこと (鳥根大学水産学研究所)

— 休憩 —

5. どの程度の負酸濃度に耐えるのか (鳥取県水産技術センター)
6. 稚貝をどこに放流すれば良いか (鳥根大学生物資源科学部)
7. 放流稚貝が生き残る条件 (鳥根県水産技術センター)
8. まとめ (鳥根県水産技術センター)

期日 平成23年 7月2日(土)
午後2時～4時30分

会場 鳥根県民会館 303会議室
島根県松江市朝日町1-8
TEL 0852-77-5825

主催 島根県水産技術センター、鳥取県衛生環境研究所、島根大学水産学研究所、水産総合研究センター

共催 鳥根県水産技術センター、鳥取県衛生環境研究所、島根大学水産学研究所

共同研究実施、鳥根県水産技術センター、鳥取県水産政策推進事業実用技術開発事業「環境変化に対応した砂泥域二枚貝類の増養殖生産システムの開発」において実施しています。

主催 / 島根県・鳥取県 共催 / 島根大学

写真 1 案内ちらし

時間半の内容を終了しました。

会場の都合により時間が限られる中での報告会でしたが、活発な質疑も交わされ、共同研究の成果について関係者の理解が得られたものと考えられました。



写真2 報告会の様子（開内専門研究員の発表）

研究の現状と今後の方向性

この共同研究により浮遊幼生の簡易判別法(モノクロナール抗体法)が開発されたことで浮遊幼生の動態の把握が迅速化され、天然採苗がより効率的に行えるようになったことや人工種苗生産技術が開発されたこと等から稚貝を大量かつ安定的に生産する技術がほぼ確立されました。また、これまで不明であった中海におけるサルボウガイの遺伝的背景や貧酸素耐性および貧酸素下でサルボウガイが斃死に至るメカニズムが明らかになりました。さらに、底泥の硫化物濃度や色度を指標とした放流適地の推定も可能となってきました。今後は、中海におけるサルボウガイ資源の復活に向けて、これらの研究成果をいかに有効活用して行くかが重要な課題となります。

現在、水産技術センターでは、中海漁協や松江市等の関係機関と協力して天然採苗試験や大量種苗放流試験を実施しています。これまでの調査から、溶存酸素や底質等の条件が適合する場所に放流したサルボウガイの稚貝は、良好な歩留まりと成長を示すことを確認しています(写真3)。また、平成22年産の種苗に



写真3 本庄水域で採集した放流貝

については、天然採苗、人工採苗ともに生産状況が良好であったことから、これまでに約 250 万個の大量の稚貝(平均殻長 10～20 mm)を中海の各地へ放流することができました。

今後は、これら放流稚貝の放流後の生き残りと成長について追跡調査を実施し、最適な放流条件(いつ、どこへ、どれ位の大きさで、どれ位の密度で放流したらいいのか等)を明らかにすることにより、中海におけるサルボウガイ資源の復活の可能性について検討していきたいと考えています。

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp